

新任職員インタビュー

学生時代に勉強したこと

大学・大学院では社会学を専攻し、地方の進学校に通う若者が自身の進路について県内・県外のどちらを選ぶか、そのメカニズムについて複数の地域を比較する研究していました。そこから若者や地方の就労に興味を持ったことが入省を志したきっかけの一つです。

入省前と入省後の印象の違い

自分が入省前に思っていたよりずっと、自分たちが行っているひとつひとつの仕事がどのような目的で行われていて、最終的にどこにたどり着くのか、そしてそのプロセスの中に自分がある意味は何かということ意識する必要がある仕事だと思いました。



いしだ 龍之介
石田 龍之介

人材開発統括官付 若年者・キャリア形成支援担当参事官室 企画係

現在の業務

当室は若年者や氷河期世代の就職支援を中心に、新卒応援ハローワークや地域若者サポートステーションに関する業務を所管しています。私はその中で作業依頼を各係につなぐ連絡調整業務を主に担当しています。

今後したいこと

まだまだ未熟な部分が多く大変ですが、今いる場所は多くの情報に触れられ、様々な知識を得られる場所です。まずはそれらを吸収していき、来年度の地方研修でも現場の知見を身につけながらバランス感覚のある行政官になっていきたいです。

学生時代に勉強したこと

大学では認知心理学を勉強していましたが、大学院では臨床心理学を専攻し睡眠とメンタルヘルスの関係について研究していました。大学院在学中に臨床心理士・公認心理師の資格を取得し、研究と平行して学内の相談室や民間企業で心理臨床の実践活動（心理相談等）も行っていました。

入省前と入省後の印象の違い

仕事について、想像していたより多くの方と関わりながら進めていくものが多いと感じています。窓口として日々連絡対応する大変さもありますが、面白く感じることも多いです。月に1日はマンスリー休暇を取得することになっており、リフレッシュもできます。



たけもと まりな
竹本 真莉奈

職業安定局 首席職業指導官室 職業紹介係

現在の業務

首席職業指導官室は、全国のハローワークにおける職業紹介業務を統括している部署です。その中で室内外の連絡窓口として、省内他部局や他省庁から室内に依頼される仕事の取りまとめや、全国の労働局からの疑義照会や一般の方からの問い合わせへの対応などを担当しています。

今後したいこと

まずは知識や仕事の進め方を習得し、日常の業務をしっかりと行えるようになることを目標にしています。来年の地方研修など、今後も様々な仕事を経験させていただく中で視野を広げ、ワークライフバランスも大切にしつつ行政官として成長していきたいです。

学生時代に勉強したこと

大学では作業療法を専攻していました。心身に関する基礎知識や、実習を通して生活をサポートする方法、一人ひとりその方の生き方があることを学びました。大学院では、公衆衛生を学び、メンタルヘルスをセルフケアとして手軽に取り組めるアプリなどの研究をしていました。

入省前と入省後の印象の違い

入省前は過酷な労働時間や前例主義など古い時代の職場環境をイメージしていました。入省してみると、テレワークや時差出勤が活用でき、また相談や提案しやすい風通しのよい環境で、今の時代に合った働き方ができる環境だった点が意外でした。



おお え さつき
大江 さつき

職業安定局 障害者雇用対策課 職業指導係

現在の業務

ハローワークにおける障害のある方への職業紹介に関わる業務を行っています。具体的には、労働局からの問合せ対応、新規求職申込件数・就職件数などのデータの集計、データに基づく障害者雇用に関する労働市場の分析、分析に基づいた労働局への対応指示などを行っています。

今後したいこと

ハローワークを利用する方が充実したサービスを受けられるよう、労働局やハローワークの職員が業務を円滑に進めることができる仕組みづくりに取り組んでみたいです。また、これまで法律について勉強したことがなかったので、労働法をはじめとする法律を勉強していきたいです。

学生時代に勉強したこと

学生時代は社会福祉学や産業保健心理学などを主に学んでいましたが、それ以外に障害者雇用や学習支援の現場にもよく足を運んでいました。そのような経験もあり、働くことを通じて幸せに生きていけるような社会を作りたいという思いが強くなり、厚生労働省を志望しました。

入省前と入省後の印象の違い

国家公務員というと静かに黙々と作業をしているイメージでしたが、実際に業務を進める上では上司や省内の他の課室、他省庁等との頻繁なコミュニケーションが不可欠で、各所で活発な議論が交わされており驚きました。皆さん優しく、相談もしやすい雰囲気です。



たなか ふう た
田中 風多

人材開発統括官付 若年者・キャリア形成支援担当参事官室 若年者就職援助係

現在の業務

新卒者やフリーターの就職に関わる施設の運営や統計の公表などを行う係で、就職内定率や求人倍率などの公表の手伝い、各都道府県労働局からの質問への回答、資料作成などを行っています。

今後したいこと

働くことを通じて誰もが幸せに生きていけるような社会を作るという志に向かって、まずは行政官として求められるスキル、調整力や説明力について地道に磨いていきたいと思います。加えて、労働分野への深い理解を土台にしながら、福祉や介護などの他分野、海外の状況などについても学び、より良い政策立案に繋げていきたいです。

学生時代に勉強したこと

大学院では臨床心理学を専攻し、認知行動療法を中心に心理援助について学んでいました。実際に、大学院の心理教育相談室やクリニックなどで、心理士として様々な不安や悩みを抱える方々に面接を行っていました。また、自分らしく働くこととメンタルヘルスについて研究を行っていました。

入省前と入省後の印象の違い

入省前は業務の具体的なイメージが掴めず、いたため、入省して「国家公務員の仕事」というものを実感し、迅速性・丁寧さ・忍耐力が欠かせないと感じました。また、都道府県の方とのやり取りの中で、書類だけでは把握しづらい現場の実情に基づいたご意見をいただき、現場感覚の重要性を再認識しました。



さとう まみ か
佐藤 真美華

人材開発統括官付 特別支援室 障害者企画係

現在の業務

障害者の職業訓練に関する業務を行っています。具体的には、障害者職業能力開発校の運営や施設の整備、都道府県に委託している障害者委託訓練の運用などを担当しています。また、都道府県からの問い合わせに対応したり、室の窓口として他課室からの作業依頼を室内の担当係に割り振ったりしています。

今後したいこと

まずは行政において必要な知識を確実に身につけたいと思っています。そのために、目の前の業務をこなすだけでなく、自身で考えながら行動し、労働行政についての理解を深めたいと考えています。最終的には、人間科学職としての専門性も生かし、より多くの人が自分らしく働ける社会を実現したいです。